

逆張りの個人は健在 MRFの残高が日経平均PBRと連動

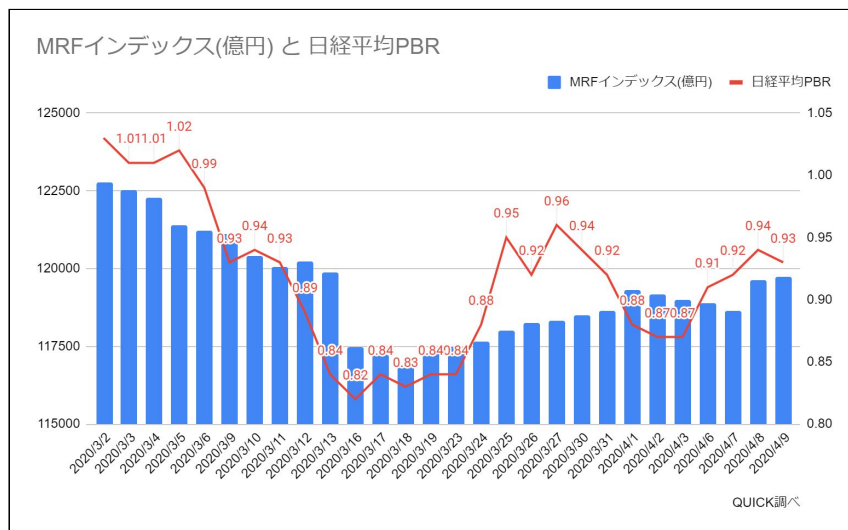
■個人投資家の動向先行指標としての活用

新型コロナウイルスの感染拡大で大荒れとなった株式相場、個人投資家も含み損を抱えて身をすくめていると思われていたが、個人の待機資金であるMRF（マネー・リザーブ・ファンド）の純資産の推移をQUICKが調べたところ、相場急落時にMRF残高が減少する相関関係が明らかとなった。乱高下する株式相場の中で、個人は買いのタイミングを見極めようとしていた。

QUICKは国内の主要な12本のMRFについて純資産総額の変化を日次で集計し、独自のインデックスを作成し、マネーの動きに注目した。

2020年3月13日の金曜日、日経平均株価は前日比1128円（6%）安と今年最大の下げ幅となった。新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正法が成立した日で、これで緊急事態宣言の発令が可能となった。同日の米国株は大幅高となり、投資家の過度な警戒感が和らぐとの見方が広がった。

日次ベースでのMRF残高と日経平均PBRを併せることで、日経平均PBRが最小値0.82を記録した日に、MRF残高が大きく減少したことが分かる。



株価の急落は新たな投資家も呼び込んだ。ネット証券最大手のSBI証券は2月26日、口座数が500万を突破したと発表した。松井証券は3月の口座開設数が前月比19%増となり、店舗を構える対面型証券が営業しにくくなる中、証券口座を持っていなかった個人の新規資金がネット証券経由で市場に流入していった。

また、投資部門別売買データを組み合わせることで、個人投資家の現物・先物売買とMRF残高の動向を確認出来る。個人の現物・先物買いが大幅に増加した週以降にMRF残高も減少していくことが見て取れる。MRF残高の減少幅以上に買い越していることから、

ネット証券等のニューマネーが流入してきたことが推測出来る大きなマネーの動きが確認出来る。

